

海の放射能ワークショップ

日時： 平成 25 年 8 月 7 日（水） 13:00～17:20

場所： 東京大学生産技術研究所 An 棟 2F コンベンションホール

コンピーナー： ソートン ブレア （東京大学生産技術研究所）

e-mail: blair@iis.u-tokyo.ac.jp

【趣旨】

2011 年 3 月 11 日に東日本を襲ったマグニチュード 9 の大地震と津波は、福島第一原発の 6 基ある反応炉のうち 3 基でメルトダウンを起こす原因となり、大量の放射性物質が海へと流れ込む結果となりました。事故直後から、複数のグループが海の放射能を調査し、今でも調査は進められています。事故から 2 年以上がたった所で、一度振り返り、現在、何がどこまで明らかになっているのか、何が未だにクリアになっていないのかをレビューする必要があると考えます。このため、現在進められているプロジェクトの研究者らで情報を共有し、問題点を明らかにすると同時に、今後の取り組みについてオープンに議論する場をもうけます。

【プログラム】

13:00～13:10

Opening remarks

小田野 直光（海洋技術安全研究所・海洋リスク評価系）

13:10～15:10

「宮城・福島・茨城県沖海域における人工放射性核種の分布とその時系列変化
-文科省モニタリング調査の総括-

日下部 正志（海洋生物環境研究所）

「常磐海域における海底土の 5 マイルグリッドマッピング観測結果」

小埜 恒夫（水産総合研究センター・中央水産研究所）

「曳航式放射能計測装置を用いた日本東海岸の海底泥 ^{137}Cs 分布調査」

ソートン ブレア（東京大学・生産技術研究所）

15:20~16:40

「魚類におけるカリウムとセシウムの動態」

金子 豊二 (東京大学・大学院農学生命科学研究科)

「福島沿岸海域におけるセシウム 137 収支と生態系移行」

神田 穰太 (東京海洋大学・大学院海洋科学技術研究科)

16:40~17:10

総合討論

司会 植松 光夫 (東京大学・大気海洋研究所)

17:10~17:20

Closing remarks

浦 環 (九州工業大学・社会ロボット具現化センター)

以上